ポイ捨てごみが瀬戸内海の海ごみに？

☆11 月は瀬戸内海の海ごみを考える月間です☆

1　瀬戸内海の海ごみ

瀬戸内海は周囲を囲まれた閉鎖性海域のため、海ごみの多くは、周辺の陸域から流れ込んだものだと考えられます。

瀬戸内海の海ごみ問題は、私たちの身近な問題です。

○漂流ごみ

文字通り海を漂うごみです。海鳥や魚が食べたり、大きいものは船舶に衝突して事故を起こすこともあります。

漂流ごみ(※１)

大きなごみの回収状況(※1)

○漂着ごみ

主に河川から流入したごみが、海流・風で海岸にたどり着いたごみです。

海岸に堆積して景観を損ない、再度海に流出して広範囲に拡散して、漂流ごみや海底ごみになります。

漂着ごみ(※２)

採取された漂着ごみ(※2)

〇海底ごみ

海に流出したごみが海底に沈んで堆積したごみです。

人目に付きませんが、海の環境を悪化させます。

海底ごみ(※４)

採取された海底ごみ(※１)

２　海底ごみの状況

〇瀬戸内海の海底ごみの量は、約 13,000 トンと推計されています。(※３)

●瀬戸内海全 53 地点で調査した結果、ごみが採取されなかったのは 1 地点だけであり、他の全ての地点でごみが確認されています。

●調査の結果、瀬戸内海に堆積した海底ごみの総量は 13,000 トン以上と推計されています。

●空き缶、ペットボトル、プラスチックごみがほとんどです。

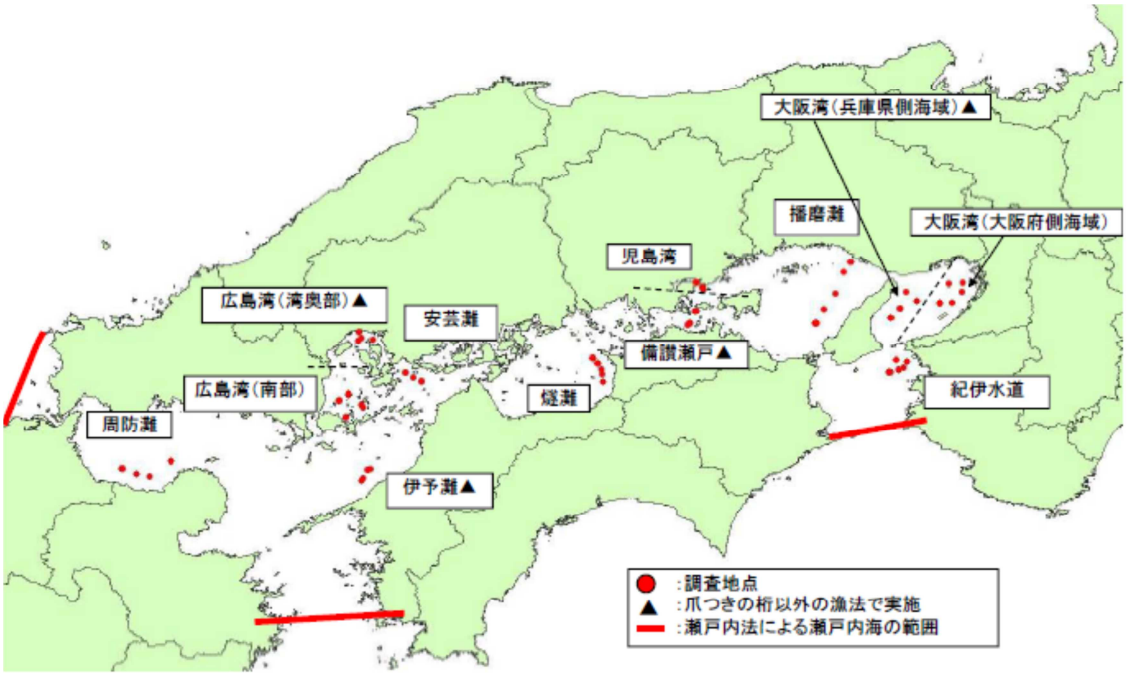
調査船（小型底曳網漁船）

位置・漁具の確認作業など

使用漁具（爪つきの網）

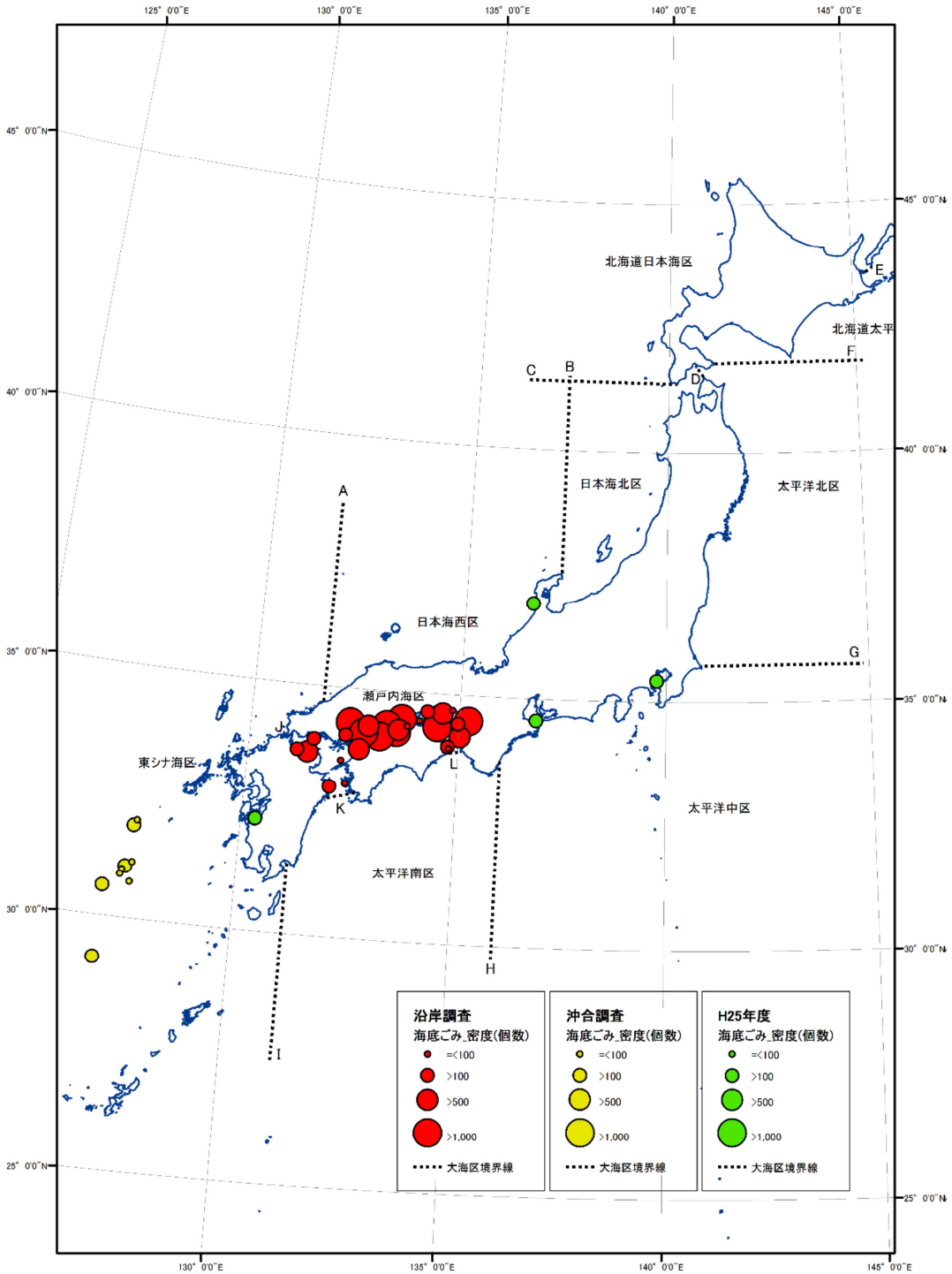
分析（分類・計量）

調査方法（※３）

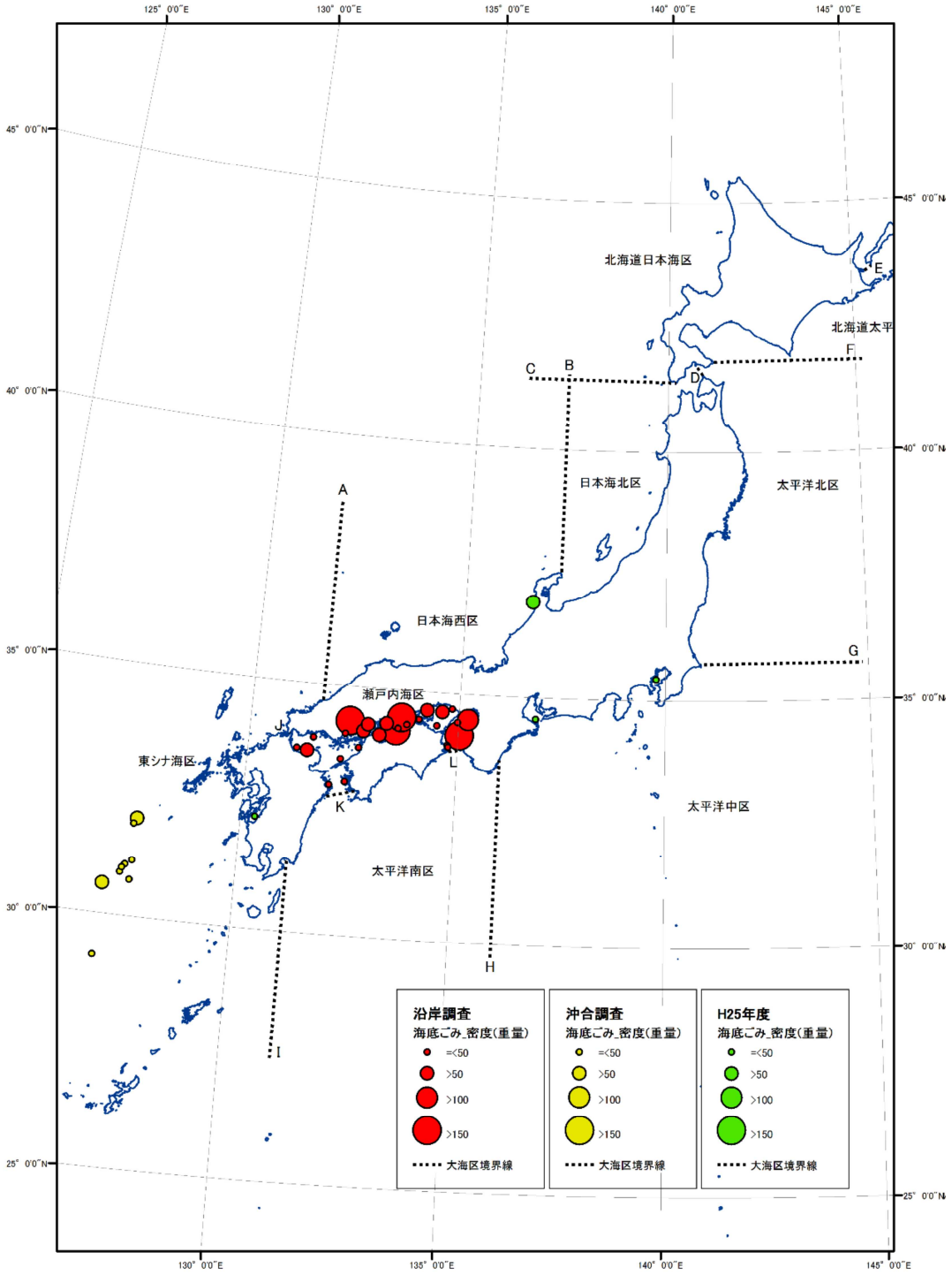


（総量推計の）実態把握調査実施地点（※３）

○瀬戸内海の海底ごみの密度は、個数・重量ともに他の地域と比べて非常に高くなっています。(※１)



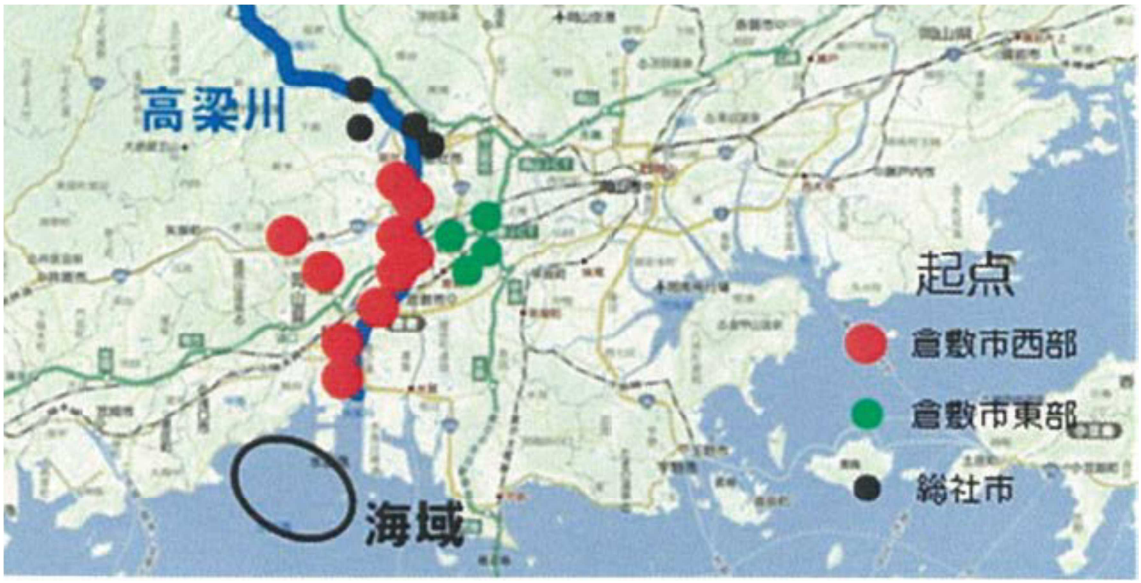
海底ごみの密度(個数)の分布



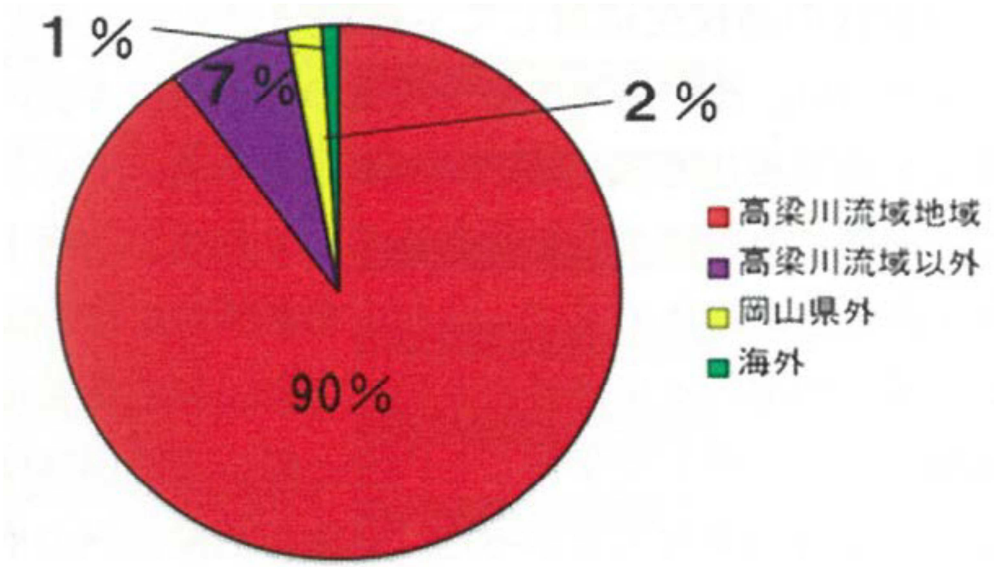
海底ごみの密度(重量)の分布

○瀬戸内海の海底ごみの発生源は、ほとんどが国内、しかも瀬戸内地域陸側の河川から流れてきたものです（※１）。

一部は漂着ごみを経て主に海底ごみ、そのまた一部は漂流ごみに。



回収海域の海底ごみの起点（例：岡山県、高梁川における実態調査）（※１）



海底ごみの起点地域の割合（※１）

○瀬戸内海の海底ごみ対策について

・既に大量にある海底ごみを、回収・除去すること

・河川から流入させないこと

一人一人が、ポイ捨てをしないことが、瀬戸内の海底ごみ問題の解決の第一歩です

これは、漂着ごみ、漂流ごみにも共通しています。

※11 月は、海域では瀬戸内海の底びき網漁の本格的な漁期直前で、瀬戸内海の豊かさを実感する時期、陸域では山里の河川流域に人々が集う秋の行楽シーズンのピークであるため、陸地側も含めて、瀬戸内海の海ごみ問題の普及啓発等に効果的な時期であると考え、『瀬戸内海の海ごみを考える月間』としました。

環境省
Ministry of the Environment

環境省中国四国地方環境事務所

※１「平成 26 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態調査委託業務報告書」（環境省委託業務　三洋テクノマリン株式会社）

※２「平成 26 年度　漂着ごみ対策総合検討業務報告書」(環境省委託業務　日本エヌ・ユー・エス社)

※３「平成 18 年度から 19 年度までの瀬戸内海ごみ対策検討会の取組成果」（環境省中国四国地方環境事務所）

※４「『瀬戸内海の海ごみ問題』について」(環境省中国四国地方環境事務所)